

<<まとめのプログラム>>

3-9 生きものと自然のつながりを感じるプログラム

3-2から3-7までの自然体験の中でみつけた動植物から生きものと自然のつながりを感じる考えるプログラムを行います。インストラクターは、食べる／食べられる関係の中で、すべての生きものがつながっていることを伝えます。

トキを題材に、トキを守るためには、トキが食べるドジョウやカエル、バッタなどがたくさんいる自然環境が必要なこと、ドジョウやカエル、バッタには、それぞれ「好きな場所」があって、「食べるもの」が決まっていること、さらに、食べる／食べられる（あるいは分解する）という関係は、動植物の複雑な関係があり、生態系としてのネットワークを作っていることを、見つけてきた生きものから学び取るまとめのプログラムです。

また、人の暮らしがそれらの生きものと関わっていることなどを、感じさせ、トキを守るためには、人の暮らし、たくさんの生きものが生息できる環境が必要だということを発見させます。

■小さな博物館づくり

みつけてきた生きものを、修理ごとにバケツに入れたり、写真やカードにして、それぞれがどんな場所にいたのか、何を食べているのかを、観察します。

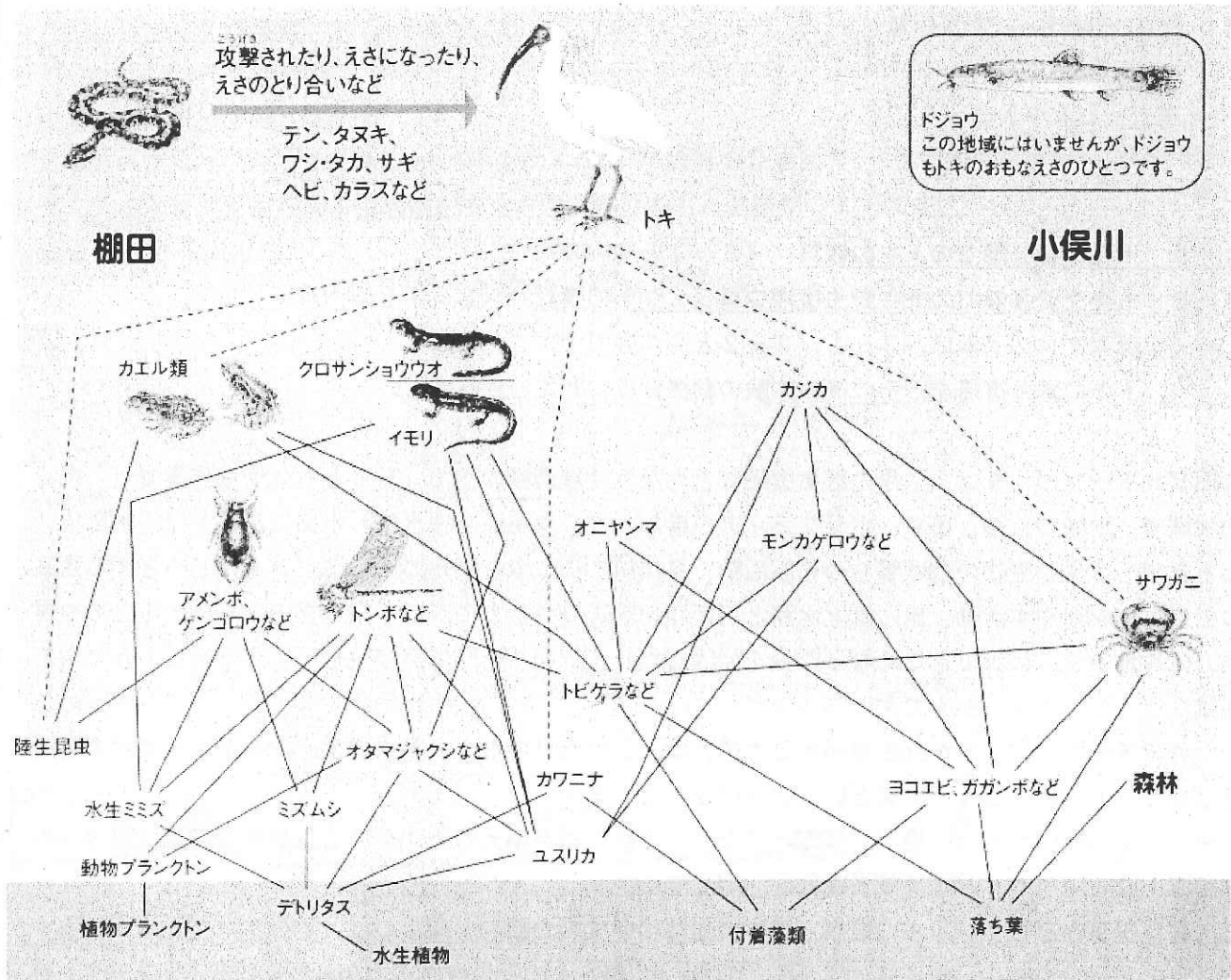
インストラクターの誘導によって、それらを線でつないでいき、ひとつのネットワーク図を作っていきます。

季節、場所によってできるネットワーク図は異なりますが、食物連鎖の基本的な流れは把握できるようにします。



見つけた生きものを、種類ごとにバケツに入れて生きものの特徴を観察。生態系を学ぶ遊びも。

所要時間 1時間～2時間（調べ学習を行う場合は2時間）



キセン城地域のおもな生きものの食物連鎖

■ねらい

ここでのねらいは、生態系ネットワークを学習することではありません。4 里山ビオトープづくりプログラムへの動機付けです。トキを守るためにビオトープづくりや田んぼ、水辺での保全活動は、トキのエサ場やねぐら作りです。トキのエサとなる生きものが増える環境づくりをすることが、トキを守ることにつながるということを、このプログラムによって確認させ、次のプログラムへの動機にします。そのため、このプログラムで、個々の子どもたちやグループへの学習評価を行わないことが大切です。